



大門小だより

2月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

令和2年1月29日
横浜市立大門小学校

子どもの力を感じた二日間

校長 佐藤 峰子

雨が上がり、寒さも少し和らいだ1月24日（金）、境川マラソンを実施することができました。農園活動と同じように、本校の地形を生かし、地域やPTAの皆さんに支えられた特色ある教育活動です。

境川の堤を走るコースは、瀬谷区側からスタートし、橋を渡って対岸の大和市側がゴールになります。低・中・高学年で距離が違いますが、スタート地点からゴールに向かって懸命に走る子どもの姿が見えます。本校では当たり前になっているコースですが、着任した職員は皆驚きます。私もそうでした。学校外でコース設定をしている小学校はほとんどなく、そもそも全校での持久走の取組は減りつつあるのが現状です。健康や交通面での安全を考慮してのことでしょう。本校では、安全面での対策を講じて、境川マラソンに臨んでいます。

その一つは、自分のペースで走ることを基本に、タイムを縮めることや完走することなど、子ども一人ひとりがめあてをもって取り組むようにしていることです。その上で、体育の授業はもちろんのこと、中休みを使ったペア学年での5分間走や学年毎に実際にコースを使った試走を積み重ねて当日を迎えます。二つとして、瀬谷区交通安全協会から3名の方にご協力いただき、交差点や橋など車が通るところをしっかりと見ていただき、PTA校外委員の皆さんにも、コースの要所要所に立っていただいて安全確保に努めています。我々職員は、運営や子どもと一緒に走るという支援に専念できるのです。それぞれの立場で人がつながり、連携して、子どもたちの走りを支えて、境川マラソンはつながってきています。

最後に走った1年生と一緒に学校に戻ってきました。「お腹のここが痛くなったけど、最後まで走ったよ」「6分45秒だったけど、今日は6分8秒だった」とタイムが縮んだことを喜ぶ子が多かったように思います。この日の給食はトンカツでした。「トンカツを食べるために頑張った」というユニークな声もありました。

翌25日（土）午前、ESD推進コンソーシアム交流報告会（児童・生徒の部）が行われました。会場であるJICA横浜・体育館には、ESD推進に取り組む小学校から高等学校まで19校と本年度のピースメッセンジャー、教員、保護者等300名近くが集まりました。本校から3・5・6年生の希望者21名が参加しました。学校全体のねらいとそれぞれの学級の取組を、2つのブースを使って発表しました。使わなくなった服の活用、地域にある障害者が働くカフェのメニューづくり、和食や瀬谷のよさを伝える取組を、短い時間の中で、自分の言葉で伝えようとする子どもの姿がありました。学校で行ったリハーサルのときより、自分たちの取組に誇りをもっていることが、力強い発表から伝わってきました。このことは、報告会に参加した全ての学校の児童・生徒に共通した姿でした。その後、全体での共有と、テーマ毎のグループ討議に移りました。周りに多くの大人に囲まれている中で、他校の取組のよさを積極的に発信する本校の子どもたちの姿があり、また本校の取組についても多くの意見をいただきました。「同じようなテーマでも、考え方や取組が違っていることを知った。他校の取組を参考にして、次にやってみたいと思うことがいくつかあった。参加してよかった」という発言がありました。私を含めて参加した職員にとっても、子どもたちの姿から、19校の取組から学ぶことが多く、来年につながる、つなげたい活動となりました。「子どもの力はすごい」と感じた二日間でした。

